



森 嘉紀先生を偲んで

名誉会員 森嘉紀先生におかれましては2016(平成28)年1月7日90歳で、天寿をまっとうされました。ご冥福をお祈り申し上げます。

山岸政雄

ご略歴：1925(大正14)年 石川県小松市に生まれる
 1945(昭和20)年 京都工業専門学校(京都工芸繊維大学)建築科卒業
 叙勲 教育功勞者にて「瑞宝中綬章」受章
 金沢市文化賞並びに「景仰の証」受賞・石川県文化功勞賞受賞
 金沢美術工芸大学名誉教授・宝塚造形芸術大学(宝塚大学)名誉教授
 日本デザイン学会名誉会員・日本デザイン学会功勞賞受賞・日本デザイン学会50周年記念表彰・日本色彩学会名誉会員・茶道宗和流十六世家元襲名

金沢美大の学生時代から公私共に薫陶を頂きましたご恩に感謝し弔文を供えさせていただきます。先生が日本デザイン学会に入会されましたのは1968(昭和43)年で、ご逝去までの48年間を学会と共に歩まれました。60年代初頭のデザイン界は東京造形大や九州芸工大の設立などデザイン教育にも新しい波が寄せ始めた時代でした。森先生はそんな流れのなかで金沢美大の教育研究、研鑽の場としてデザイン学会への積極的参加を主導されました。時には授業が終わってから夜汽車で役員会に上京されたお姿を想い出します。金沢美大在任中には第22回(1975)、第31回(1984)、第42回(1995)デザイン学会金沢大会を招致され地方大会を先導されました。そこでは公立大学である金沢美大の学的水準維持と、専門教育並びに地域研究の総和を学会への繋がりの中に期待しておられたと思います。全国大会の

開催は当該自治体のデザイン振興と深く関わることも説かれ、金沢市と石川県のご協力に感謝をしておられました。先生も發起人でおられた石川県ビジュアルデザイン協会1971(昭和46)年や北陸都市史学会1978(昭和53)年の設立も地域にデザインの知を集積する力となっています。また卒業生の就職は人生の大事と位置づけられ、上京や訪阪の企業訪問時には学生を伴い日に何社もの強行日程をこなされました。多くの卒業生が先生のご逝去を悲しんでいる事由です。先生とは幾度か海外の学会にご一緒させて頂きましたが、ご明察の先にはいつも日本美との比較がおありでした。背景には幼少時から学生時代まで京都で過ごされ建築科をご卒業の来歴が伺えます。建築物はもとより屋外広告物や伝統看板、美しい町並みなど失われる日本美に慚愧の念ひとしおおられました。歴史都市金沢における美観風致の維持についても大所高所から施策に協力されています。ことに屋外広告物については1949(昭和24)年の屋外広告物法制定時の早くから事の重要性を推察され、以来最近までの長きにわたり金沢市屋外広告物審議会会長、石川県「いしかわ広告景観賞」などの審査、表彰の労を担ってこられました。デザイン学会の会員も多数参加された「公共の色彩を考える会」金沢シンポジウム1986(昭和61)年では、記念講演の小池岩太郎先生をはじめ、パネリストの稲次敏郎、日原もとこ先生など多くの方々に誘って頂いた景観哲学に感銘を深くしておられました。色彩学は京都工専時代の恩師山崎勝弘先生(奈良女子大名誉教授)の流れを継がれ、金沢美大では色彩学者イッテンの研究でご高名な大智浩教授と連携されて1991(平成3)年のご退職までご指導を頂きました。デザインの考究にもご熱心な先生は地域のデザインを大切に心しておられました。デザイン学会の重鎮勝見勝先生ともご懇意でご来沢の折に金沢城の石垣に刻まれた「刻印」のデザインを語り合っておられたのも昨日のようです。柳宗理教授が巧みにして力強い日本のデザインとして賞賛された金沢の菓子木型についても「加賀の和菓子木型展」1971(昭和46)年の開催に尽力されました。いまも菓子本舗・金沢「森八」で陳列公開されています。ご堪能な先生は茶道においても宗和流十六世家元を襲名されています。宗和流は金森宗和の流れを汲み加賀藩主三代利常時代から金沢と深い縁を持つ家元で金沢に茶道文化を導きました。まさに生涯に亘って和の美学でデザインの教育と研究に責任を持たれました。またデザインは“ひととひと”の関わりを造形でどのように渡るかの作法であるとの慧眼をもっておられたようです。事例は金沢の広告箋(ちらし)を編輯されたご著書「金沢の引札」《文一総合出版・昭和54年》でも範示され明治・大正の広告作法の貴重な資料となりました。金沢美大は本年創立70周年を迎え先生が楽しみにされていたキャンパス移転も金沢大学工学部跡地に決まりました。

私共を育てて頂いたご生涯に心より哀悼を申し上げます。

平成 28 年度日本デザイン学会秋季企画大会会告

2016 年秋季企画大会の概要を以下の通り、お知らせいたします。詳細については、web およびメールニュースで確認をお願いいたします。

- (1) 学生プロポジションについては 8 月末に概要をお知らせします。
- (2) レセプションのみの参加も歓迎いたします。
(研究推進委員会)

日本デザイン学会秋季企画大会
「デザインの哲学～豊かさを再考する」

- 日時 2016 年 10 月 1 日 (土) 10:00 ~
- 場所 武蔵野美術大学新宿教室 新宿センタービル 9 階
〒163-0609 東京都新宿区西新宿 1-25-1

2016 年秋季企画大会では、「デザインの哲学～豊かさを再考する」をテーマに、午前には基調講演、午後には特別講演と関連するデザイン系の学会（日本デザイン学会、芸術工学会、意匠学会、道具学会、基礎デザイン学会、日本インダストリアルデザイナー協会）の各会長をパネリストとしたパネルディスカッションをおこないます。

テーマは、豊かさを再検討によるデザイン哲学の再生です。デザインの知の総合が問われると同時に、生活環境や生産環境の豊かさについての思考、デザイン方法や思想の多様性が求められます。また「道具」「地域」「文化」「移動」「風景」「社会」「価値」などのキーワードは豊かさを考えるとき、鍵になるといえます。

秋季企画大会が上に述べた目標や課題に対して、あるべきデザイン、サービス等も含めた社会あるいは環境形成の哲学の生成の場になることを期待します。

●大会プログラム

受付開始 9:30

1. 開会、会長挨拶 10:00
2. 日本デザイン学会各賞受賞式
3. 基調講演
向井周太郎（武蔵野美術大学名誉教授、日本デザイン学会名誉会員）
4. 理事会
5. 学生プロポジション
6. 特別講演
西垣淳子（経済産業省商務情報政策局クリエイティブ産業課長）

7. パネルディスカッション

コーディネータ：小林昭世（武蔵野美術大）

パネリスト：

- 面矢伸介（道具学会会長、滋賀県立大）
- 斎木崇人（芸術工学会会長、神戸芸術工科大）
- 田中一雄（JIDA 理事長、GK デザイン機構）
- 藤田治彦（意匠学会会長、大阪大）
- 松岡由幸（日本デザイン学会会長、慶應義塾大）

8. レセプション（法人設立報告会を含む）

平成 29 年度日本デザイン学会春季研究発表大会会告

平成 29 年度春季研究発表大会の日程と会場についてお知らせいたします。多数の会員のみならず、ご参加をお待ちしております。

日程：2017 年 6 月 30 日（金）～7 月 2 日（日）

会場：拓殖大学 文京キャンパス

※詳細につきましては、準備が出来次第、日本デザイン学会ホームページ等にてお知らせいたします。

献本御礼

◆機関誌

デザイン理論 67 号、2015 年、意匠学会
東北工業大学研究業績一覧 2014 年度、2015 年 12 月、東北工業大学
筑波大学 [芸術] 40 周年記念誌、2016 年 3 月、筑波大学芸術系
TAMABI News 70、2016 年 3 月、多摩美術大学
日本オフィス学会誌 第 8 巻・第 1 号、2016 年 4 月、日本オフィス学会
デザイン理論 68 号、2016 年、意匠学会

◆報告書

第 5 回世界工学会議 報告書、2015 年 11 月、日本学術会議他
GK Report No.30/2016、特集 コミュニケーションの可能性 2、2016 年 3 月、株式会社 GK デザイン機構

◆図書

陶磁器ワラ包装技術の文化史、宮木慧子、2015 年 4 月、吉川弘文館
エクソダス—アートとデザインをめぐる批評、暮沢剛己、

2016年5月、水声者

生命デザイン学入門、小川（西秋）葉子、太田邦史、2016年3月、岩波書店

東日本大震災復興研究Ⅴ 震災復興は東北をどう変えたか、東北大学大学院経済学研究科 地域産業復興調査研究プロジェクト、2016年3月、南北社

◆展覧会図録

JIDA Design Museum Selection Vol. 17、2016年

会員の移動

◆平成28年度第4回理事会承認 2016.07.02

新入会

正会員13名（内海外会員4名）

海老澤伸樹 兼清 慎一 齋上 康子 酒井日出子
高橋 光輝 松下 勇夫 宮川 成門 横山 広充
吉田 晃永 丁 知強 Sun Yuan Song Ming Liang
Yan Xu Dan

学生会員8名

伊藤慎二郎 小川 慧 檜村 友梨 工藤 洋司
照井 亮 中島 瑞紀 中辻 七朗 森本 夏歩

退会

正会員1名

八田 興

学生会員1名

川端 彬子

本部事務局より平成27年度決算報告 訂正のお願い

デザイン学研究特集号91号の巻末に掲載した平成28年度総会資料の中で、P18の平成27年度決算報告の以下3カ所に数字の間違ひがありました。訂正しておわびいたします。なお、監査は正しい金額で行われていることをご報告いたします。

（本部事務局）

■支出の部

項目	増減対予算額	
その他	誤 15,432,864 ⇒ 正 10,432,864	
26 次年度繰越金	誤 11,092,553 ⇒ 正 6,092,553	
計	誤 2,843,765 ⇒ 正 -2,156,235	

自動引き落とし手続きのお願い

当学会では、会費の自動引き落としが義務付けられております。すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。また、口座引き落とし依頼書がお手元にない方は、本部事務局へご請求ください。

本部事務局